

# ○能登ヒバOILの蚊に対する忌避率



## 結果

試験結果を表1に示した。

1回目試験開始30分後の吸血虫数は試験区で50匹中0匹、対照区で50匹中41匹であった。

2回目試験開始30分後の吸血虫数は試験区で50匹中0匹、対照区で50匹中26匹であった。

吸血阻害率(%)を算出すると、1回目の吸血阻害率(%)は100.0(%)、2回目の吸血阻害率(%)は100.0%であった。

平均吸血阻害率(%)は100.0%であった。

表1. 能登ヒバ油の蚊に対する忌避効果試験結果

	区	吸血虫数	吸血阻害率(%)	平均吸血阻害率(%)
1回目	試験区	0	100.0	100.0
	対照区	41		
2回目	試験区	0	100.0	
	対照区	26		

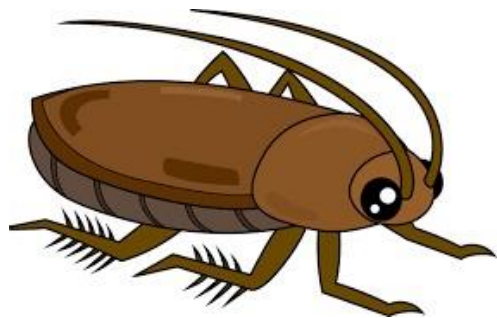
$$\text{吸血阻害率(}\%) = \frac{(\text{対照区の吸血虫数} - \text{試験区の吸血虫数})}{\text{対照区の吸血虫数}} \times 100$$

## 考察および結論

今回、能登ヒバ油の蚊に対する忌避効果試験を実施した。

その結果、1回目、2回目ともに100.0%の吸血阻害率を示し、平均して100.0%の吸血阻害率を示した。

また、対照区ではケージ内に右腕を挿入した直後に吸血を開始したのに対し、試験区では左腕をケージ内に挿入した際、蚊が左腕を避けるように激しく飛び交う様子が確認された。



## ◎プレミアムウォーターのチャバネゴキブリに対する忌避効果試験

表 1.NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターのチャバネゴキブリに対する忌避効果試験結果

	試験区のゴキブリ数 (匹)	対照区のゴキブリ数 (匹)	忌避率 (%)
1回目	4	90	95.6
2回目	15	72	79.2
3回目	2	98	98.0
平均	7.0	86.7	90.9

### 11. 考察及び結論

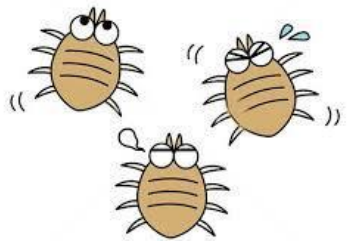
NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターのチャバネゴキブリに対する忌避試験を実施した結果、1回目 95.6 %、2回目 79.2 %、3回目 98.0 %、平均して 90.9 %の忌避率が確認された。

1～3回目の全てにおいて、半数以上のゴキブリが対照区のシェルターに集まっていたことから、NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターを処理した試験区のシェルターを避けているものと考えられた。

プレミアムウォーターとは、  
能登ヒバのエッセンシャルウォーターに  
能登ヒバオイルを加えた  
高濃度能登ヒバ水のことです。

2017年 3月 22日

株式会社食環境衛生研究所調べ



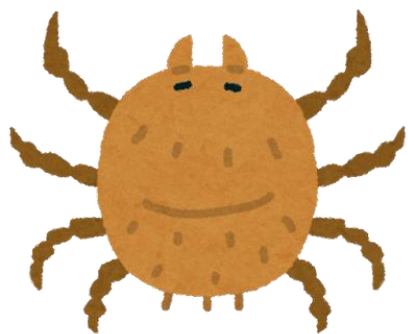
## ◎プレミアムウォーターのヤケヒョウヒダニに対する忌避効果試験

### 12. 考察及び結論

「インテリアファブリックス性能自主基準」では50%以上の忌避率で有効としており、NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターの屋内塵性ダニ（ヤケヒョウヒダニ）に対する忌避効果試験の結果、81.7%の忌避効果が確認された。よって、NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターは有効と判定できた。

2017年 3月 22日

株式会社食環境衛生研究所調べ



## ◎プレミアムウォーターのフタトゲチマダニに対する忌避効果試験

表 1 NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターのフタトゲチマダニに対する忌避効果試験結果

	部屋 A のマダニ数 (匹 n=5)	部屋 B のマダニ数 (匹 n=5)	部屋 A の合計 (匹)	忌避率 (%)
試験群	3・6・4・4・2	7・4・6・6・8	19	51.3
対照群	8・9・8・6・8	2・1・2・4・2	39	

$$\text{忌避率 (\%)} = \frac{\{\text{対照群の部屋 A のマダニ数(5 反復合計)} - \text{試験群の部屋 A のマダニ数(5 反復合計)}\}}{\text{対照群の部屋 A のマダニ数 (5 反復合計)}} \times 100$$

### 11. 考察及び結論

今回の試験で忌避率は **51.3** % となった。しかし、1~5 回目の全てにおいて試験群の部屋 A のマダニ数は対照群の部屋 A のマダニ数より少なく、NOTOHIBAKARA プレミアムウォーターがマダニに対する忌避効果を有する可能性が示された。

2017年 3月 22日

株式会社食環境衛生研究所調べ